



この冬はインフルエンザが流行するのか

～インフルエンザワクチン接種が大切～

日本では、インフルエンザの患者数が毎年約1000万人で、インフルエンザが直接死因となった人と、罹患により慢性疾患が悪化して死亡した人の合計数は毎年約1万人です（厚生労働省）。昨冬は新型コロナウイルスとの同時流行が懸念されましたが、インフルエンザ患者数は1万4000人で、例年のわずか1000分の1でした。

その理由として、「消毒など感染症対策の徹底」「国内外の人流抑制」「ウイルス干渉＝先にあるウイルスが流行していると他のウイルスに感染しにくくなる」などがよく挙げられています。

さて、今冬はインフルエンザが流行するのか。その予測として6～8月に冬となる南半球のオーストラリアなどでの流行状況が参考となりますが、昨年につづき今年も感染者数は少ない模様です。

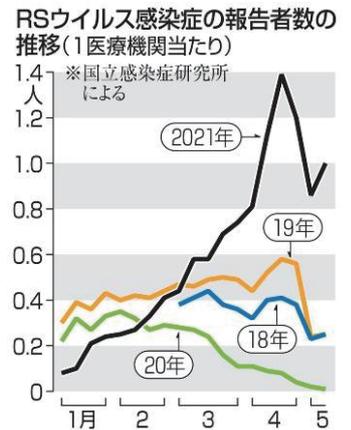
しかし、今冬はインフルエンザの流行が起こる可能性を指摘する専門家もいます。インフルエンザと同様に2020年にほとんど流行しなかったRSウイルス感染症が、新型コロナの感染拡大が続く今年は日本や世界で爆発的に流行しました。1年間流行しなかったことによるRSウイルスの免疫低下が考えられます。同様に201

9年の日本のインフルエンザ患者は728万人で、2年連続で大きな流行がなく、免疫を持たない人が増えて大流行の危険性がある、というのです。

日本の新型コロナウイルス感染症患者は160万6436人、死者は1万6564人（9月8日現在）で、

単純な致死率は1.03%です。それに対し、インフルエンザは例年およそ10人に1人が発病し、そのうち1000人に1人（0.1%）が亡くなっています。新型コロナに比べて致死率は低く見えますが、毎年多数の予防接種の実施と確立した治療法がある中での数字で、1年間の死亡者総数では新型コロナに匹敵します。

新型コロナの感染収束が見通せないなかでインフルエンザの流行がおきれば、ますます入れる病床が無くなり、重症になっても十分な治療が受けられない事態が想定されます。やはりこの冬もインフルエンザの予防接種と感染予防対策の徹底が大切です。



◆当院のインフルエンザ予防接種は11月1日(月)から実施します(予約は開始しています)

通常の外来診療およびワクチン外来で接種できます <予約制>

ワクチン外来:①11/8、②11/22、③12/13、④12/27 いずれも(月)14時～15時

★新型コロナワクチン予防接種と他のワクチンの接種間隔は、前後2週間空ける必要があります

★新型コロナワクチンと他のワクチンは同時に接種できません

<特定健診やがん検診を受けましょう>

毎年、健診により糖尿病や高血圧などの生活習慣病やガンなどの疾患が早期で見つかっています。新型コロナにより、昨年は健診を受けられる方が例年に比べ少なく、それだけ病気の発見が遅れている可能性があります。ぜひ、健診を受けましょう。

なお、当院では、かぜ症状や発熱の患者さんと、一般の方とで時間や待機場所を分け、感染予防対策をした上で診療や健康診断を行っています。

8月の太陽光発電量 **1,067kwh**

CO2削減量… 538Kg
杉の木の年間吸収量 約38本分